

3 サクラと暮らしのガーデンゾーン (仮称)

サクラを保全するための間伐や土留めなどの対策を。サクラ以外にも四季を楽しめるゾーンに。



	マイナス	今のまま (保全・回復・修復)	少しのプラス
主な意見	【植栽】 ・巨木化したセンダン（鳥がタネを運んできて育ったと考えられる）や、水系施設付近のメタセコイアの間伐。 ・あずまやの周辺の樹木を伐採し、見通しを確保。今は、夜に若者のたまり場になっている。 【施設】 ・各バス停の朽ちたベンチの撤去。	【植栽】 ・古木のサクラの更新。 ・サクラの根の保護や土留めの修復など、サクラを守るための処置。 ・あやめ橋跡のアヤメの復活。 ・サクラ以外の良さもアピールしたい。 ・道沿いの花壇は、もっと認知される工夫が必要。 【施設】 ・歩きづらい園路の修復。 ・各バス停のベンチを新たにするなど、休憩しやすくなれば、散歩中も使いやすい。 ・水が流れなくなっている水景施設の復活と活用。	【植栽】 ・アジサイやモミジ、カエデを充実するなど、季節ごとに楽しめるようにしたい。 ・市民が花壇の世話をする際に、支給される花の種類をある程度自由に選択できれば、どこも同じものではなく、季節変化も楽しめる花壇になるのでは。 【施設】 ・交差点部の園路や植栽配置を工夫し、歩行者等をうまく誘導できるようにならないか。 ・流れを眺めながらゆっくりできるベンチがあれば。

4 庭園・レクリエーションゾーン (仮称)

サクラ、ウメ、モミジを活かして、四季折々のみどりを楽しめるゾーンに。



	マイナス	今のまま (保全・回復・修復)	少しのプラス
主な意見	【植栽】 ・サクラを圧迫している樹木の間伐。 【利用】 ・周辺の工場の匂いが気になる。	【植栽】 ・梅園があるので、ウメをもっと活かしていけるとよい。 ・サクラだけではなく、梅林やモミジを活かした名所づくり。	【植栽】 ・四季がもっと感じられる場所に。 【施設】 ・植物の名札があるとよい。

全ゾーンの総括と元茨木川緑地全体に関する意見

	マイナス	今のまま (保全・回復・修復)	少しのプラス
植栽	・安全や樹木の健全育成の点からみた樹木の間伐や生垣の整理。	・サクラを主とした樹木全般の健全育成。 ・アヤメの復活。 ・落ち葉の風景も楽しみたい。 ・植栽管理の品質の維持。	・季節が感じられる植栽の充実。（ただし、植物を増やすと、維持管理が大変になる。みんなで花や緑を育てる活動は、継続が大変。）
施設	・老朽化したベンチの撤去。	・ベンチや園路の修復、排水の改善。 ・記念碑等の活用。	・川端康成文学館前の魅力向上。 ・隣接する公園との一体化。 ・広場など公園的な空間の充実。
利用等	・ハトやカラス、石畳などで、安全に歩けないところがある。	・子どもが自然と触れあえる場。	・市民交流やボランティア活動に利用。 ・樹名札、モニュメントの説明板、マップ等のツールの充実。
自転車	・自転車利用者のマナー改善が大事。 ・自転車が緑地の中を通れないようにする方がよいという意見もあり。		

次なる元茨木川緑地プロジェクト // NEWS //

第2回市民ワークショップ開催！

“次なる元茨木川緑地”を考える「市民ワークショップ」の第2回目を開催しました。第1回ワークショップで考えていただいた4つのゾーニングについて、ゾーンごとに具体的な改善箇所を考え、アイデアを出し合いました。

開催概要

日時：平成30年7月23日（月）18:00～20:00
場所：茨木市役所 南館 8階 中会議室



左上写真：1班の発表 右上写真：2班の発表
左下写真：3班の発表 右下写真：加我先生から次回に向けたお話し

改善の方向性

これまでの意見から、元茨木川緑地の植栽及び施設の「改善の方向性」を整理すると、**現状からマイナス**することでより良くなること、**今のままの良さを残すために保全、回復、修復**するもの、**現状から少しプラス**することで機能や魅力を向上していくもの、の3つの方向性が考えられることを、参加者の皆さんと共有しました。

自転車については、これまでのワークショップやシンポジウムでは、利用を禁止するという意見はなく、**代替ルートの確保、マナー啓発**の2つの方向性が考えられます。

植栽・施設		自転車
① マイナス 例) ○ 密度の高い高木、低木 ○ 機能しない施設	保全 例) ○ 神社周辺の緑 ○ シンボルツリー 回復 例) ○ 樹勢回復 ○ サクラの生育環境 修復 例) ○ 老朽化した施設 ○ 咲かなくなった花木	代替ルート確保
② “今のまま” ・ 緑を守る、残す ・ サクラを大事に		マナー啓発
③ 少しのプラス 例) ○ ベンチなど休憩施設 ○ みんなで育てる花		

リ・デザインの方針（ゾーニング）

第1回市民ワークショップで、各班で考えていただいた4つのゾーニング案を、1つの「リ・デザイン方針」としてまとめました。

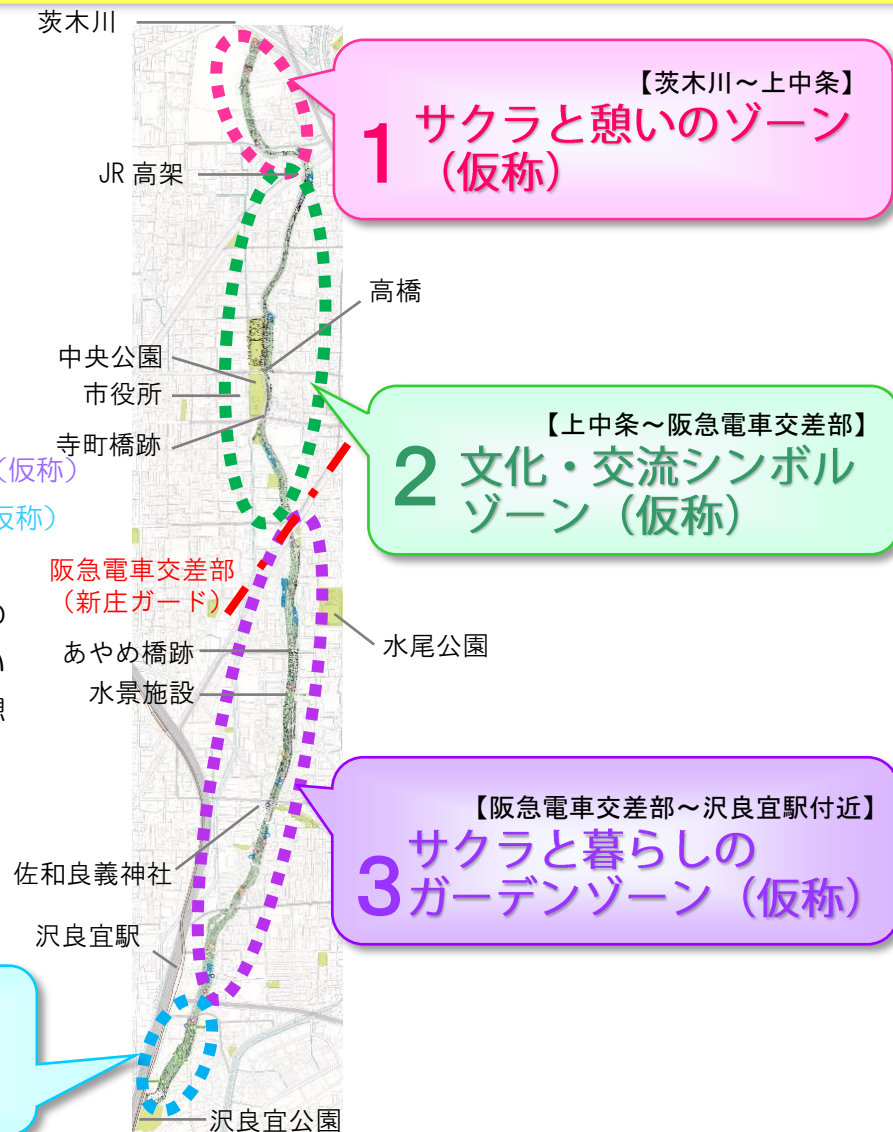
「リ・デザイン方針」は、右図のように、4つのゾーンで構成し、茨木川に接する北側から南に向かって順番に、

- 1 「サクラと憩いのゾーン」(仮称)
- 2 「文化・交流シンボルゾーン」(仮称)
- 3 「サクラと暮らしのガーデンゾーン」(仮称)
- 4 「庭園・レクリエーションゾーン」(仮称)

としました。第2回市民ワークショップでは、この4つのゾーンを、どのように改善していけばよいか、具体的なシーン(場面)を想定しながら検討しました。

※ゾーンの名称は、検討段階のため仮称です。今後の検討で変更になる場合があります。

【沢良宜駅付近～沢良宜公園】
4 庭園・レクリエーションゾーン (仮称)



各ゾーンの検討（ワークショップの意見のまとめ）

※写真は全て現況のもの

1 サクラと憩いのゾーン (仮称)

サクラを中心としたゾーンに。図書館帰りにゆっくりすごしたり、子どもが遊んだり、市民の交流の場となるような広場を。



	マイナス	今のまま (保全・回復・修復)	少しのプラス
主な意見	【植栽】 ・ 倒木の恐れがある木や、密度が高い場所の樹木を間引く。 【安全】 ・ ハトを減らして、安全に通行できるように。	【植栽】 ・ サクラを中心とした場所に。 ・ サクラ以外の木も、50年後も元気であるように。 ・ 地面が落ち葉を覆っている景色も楽しめるように。 【施設】 ・ 老朽化したベンチの修復。 ・ 歩きにくい園路の修復。 ・ 落ち葉で雨水桝が詰まるので、対策が必要。	【植栽】 ・ サクラの下を芝生に。 【施設】 ・ 隣接する中央図書館が飲食禁止のため、元茨木川緑地に飲食ができるスペースがあるとよい。 ・ 遊具を置くなどして公園化すれば、近くに住んでいない人とも利用できるのでは。 【利用】 ・ ボランティア活動や子どもとの交流など、高齢者が利用できる場になれば。 ・ 山で採れた野菜の販売などがあれば人が集まるのでは。

2 文化・交流シンボルゾーン (仮称)

うっそうとした場所などは間伐を。ケヤキ並木を活かす。川端康成文学館など隣接する施設や公園との一体感を出す。



	マイナス	今のまま (保全・回復・修復)	少しのプラス
主な意見	【植栽】 ・ サクラや花木を圧迫しているカシノキなどの間伐。 ・ うっそうとした箇所ので樹木の間引き。 ・ 低木や垣根の整理。 ・ 高橋から寺町橋跡までの東側の緑地が活かされていない。 【施設】 ・ 高橋から寺町橋跡までの東側の緑地の石畳が歩きにくい。 ・ モニュメントは撤去した方がよいという声もある。	【植栽】 ・ ケヤキ並木は良いイメージ。 ・ 樹木の足元は、裸地ではなく、芝生や下草、落ち葉で覆われているとよい。 ・ 樹木や草花の管理レベルが業者によって異なる。樹木管理マニュアルのようなものが必要ではないか。 【施設】 ・ 記念樹、記念碑、樋門跡などをもっと活用できないか。 【利用】 ・ 子どもが自然とふれあえる場所であるとよい。	【植栽】 ・ 川端康成文学館付近に若園公園のようなバラ園があれば。 ・ 芝生化が計画されている中央公園の周囲に並木を植え、広場側に木陰ができるとうよい。 【空間】 ・ 中央公園、東中条公園など、隣接する緑地を、一体的な空間にしてはどうか。 ・ 消防本部前の交差点をアンダーパスにするなど、緑地に連続性をもたせられないか。 【施設】 ・ 川端康成文学館の前を、文学館を感じられ、文化的な雰囲気のある場所に。 ・ モニュメントに説明板があるとよい。 ・ 植物の名札や樹名札、紹介マップ等があると良い。市民で作っても良いのでは。